

校長室から

(R8.6月)

～おもいをのせて～

文責：菅 昌徳

壮寿会との交流 (小学部)



小学部が継続して取り組んでいる地域の方との異世代交流の第1回目を6月23日(火)に行いました。本校、分教室の児童が交わり3つのグループに分かれ活動をしました。毎年のことではありますが今年初めての交流ということもあり、登校してきた児童たちは、楽しみ半分、不安半分といった感じの緊張感のある表情でした。「今日は交流だね」声掛けをすると緊張もほぐれ「〇〇さんと同じグループ」「〇〇ゲームをするんだ」など今日の交流への期待と思い入れを笑顔で伝えてくれました。



交流会が始まり、進行をする各グループの担当者たちは事前に練習した成果を存分に発揮して大きな声で分かりやすく説明をしながら取り組んでくれました。人前で声を出して伝えることの経験がそれぞれの自信として蓄えられ自分らしさを高めていくことを期待しつつ「頑張ったね」



「いい声だ」と胸の中でエールを送りながら参観していました。

児童が考えたいくつかのゲームでは、それぞれの児童が笑顔で説明をしたり、協力して活動したりととても和やかで、心と心を交わしあいながらの関わりができ児童たちの笑顔はとても素敵でした。そんな児童たちの笑顔を引きだしてくださる壮寿会の皆様に深く感謝いたします。

これからもたくさん関わりをもっていただき、児童たちの笑い声と笑顔あふれる交流会になればと思っています。今年も1年間よろしくお願いいたします。



分教室での出来事

避難訓練を終え、授業参観で校舎を巡回しているときのことでした。中学生が授業で作物の収穫をしているところに遭遇し、何気なく「大葉 納豆と食べると おいしいんだよね」と話けると、収穫をしていた生徒たちが「へーっ、そうなんや 校長先生、食べる」と返事をしてくれました。横にいた授業を進めている先生に目で合図しながら「おいしそう ほしいなあ」と生徒に伝えると即座に「先生、校長先生にやってもいい」と尋ね、答えを聞く間もなく数枚の大葉を分けてくれました。生徒たちの何かしてあげたいという優しい思いは温もりのあるメッセージに感じました(授業中に割り込んでごめんなさい)。その姿に分教室の先生方が日々の学校生活の中で児童生徒たちを大切に思い、一人一人に対する愛情を降り注いでいる証だと確信しました。心の成長を大切にした指導に感謝でいっぱいです。

これからもよろしくお願いいたします。

ちなみに

もらった大葉は納豆と一緒にではなく

「てんぷら」にして食べました。(笑)

香がよく、とても美味しかったです。



また、よろしく！！